

KAN  
WON  
KAN

株主のみなさまへ  
第19期

平成18年12月1日～平成19年11月30日

研究開発型外食企業

玄品グループ  
株式会社



関門海

## 「過去の整理と将来の成長のための準備を同時に推進した1年」

**ーまず、今期(平成19年11月期)を振り返って総括していただけますか？**

今期は当社グループにとって激動の1年でした。「過去の整理と将来の成長のための準備を同時に推進した1年」という感じです。過去の整理という意味では、まず、創業者である山口聖二の急逝後、混乱した資本構成に一つの目処が立ちました。また、関門海三重陸上養殖場の閉鎖など特別損失も計上しました。将来の成長のための準備としては、主力業態「玄品ふぐ」の認知度向上と店舗運営力の向上を図りつつ、「おかずのカネジ」の事業譲受、グループ本部事務所の開設、新規開発業態の推進、サッポロビールとの資本業務提携などグループ全体にとって大きな変化のあった1年でした。

**ー今期は赤字決算となっていますが、その理由を簡単に説明してください。**

赤字決算となった最も大きな要因は特別損失の計上です。今期は384百万円の特別損失を計上しましたが、その内訳は、関門海三重陸上養殖場の閉鎖等による固定資産除却損146百万円、店舗の閉鎖損失56百万円、カネジ営業所の統廃合14百万などに加えて、アサヒビールへの解約違約金等140

百万円を計上したことによっています。この点については、サッポロビールと資本業務提携を行ったことによりこれまで主売契約を締結していたアサヒビールから頂いていた契約金の一部を解約違約金として支払うことが確実となったことにより、損失を今期の決算で計上したものです。当然、サッポロビールから第20期にこの金額以上の契約金をもらうことになっており、この点については会計上の問題であり実質的な損失はありません。

**ー今期、とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」はどのような点に注力されましたか？**

今期は新規顧客開拓のための認知度の向上とリピート客の増加のための店舗運営力の向上をテーマといたしました。

認知度向上としては、好立地での出店を推進し、六本木、梅田東通、船場、新宿歌舞伎町、横浜などの好立地での中大型店舗の出店を行いました。また、12月から関西、1月から関東でテレビCMも開始しました。放映はいったん完了しましたが、特に関西においては、飛躍的に知名度が向上できたと思います。

店舗運営力の向上としては、人材教育・研

修、店長独立支援制度を核とした組織改革、新商品の投入などに注力いたしました。結果、上半期では既存店前年比マイナス1.3%とほぼ下げ止まりとなり競合状況等に変化のない店舗は概ね業績を改善しましたが、下半期は猛暑の影響もありマイナス5.2%となりました。通期では前期よりも改善し、マイナス2.8%とプラスにまでは至りませんでした。が来期につながる手ごたえを感じています。

**ーでは、かに料理専門店「玄品以蟹茂」はどのような状況でしょうか？**

前期に開発を促進したかに料理専門店「玄品以蟹茂」ですが、好調店舗と不採算店舗が大きく分かれる結果となりました。かに料理店として店舗開発を行った店舗については概ね順調に推移しておりますが、玄品ふぐの不振店の業態転換については完全に失敗に終わったという結果です。「玄品以蟹茂」は、好立地店舗の収益性については確認できたので、玄品ふぐ出店済のエリアで物件が開発できた場合など出店を継続して行っていく方針です。

### 一新規開発業態についてはどのように展開されていますか？

今期は新規業態の開発を積極的に推進したため損失が発生している状況です。損失が発生させてまで新規業態開発を継続して行っている目的は、競争力のある食材を開発できたとしても当社に業態開発力がなければ事業化することは困難だからです。当社はカレー業態などでの失敗から、業態開発能力・店舗運営能力の高い人材や外部ブレイン・業務提携先を確保することが、玄品ぶぐに続く業態による成長や他の外食企業をM&Aしていくために非常に重要だと考えています。

もちろん、とはいっても赤字を続けるつもりはなく、新規開発業態事業としても開発投資がなければ、十分に黒字化できる見込みです。

### 一サッポロビールと資本業務提携の狙いは？

資本業務提携の目的は、サッポロビールが外食業界において業務用酒販のシェアを拡大するためM&Aの受け皿となる企業として、当社にオファーがあり、当社としてもこれまでに投資してきた食材に関連する技術を活用したM&Aに積極的に取り組みたいとい

う意志と資本政策上の問題から是非提携したいという判断をし、資本業務提携の合意に至ったものです。今後、当社グループは、サッポロビールの経営資源を最大限に活用し、さらなる食材に関する競争力の向上を図りつつ、収益性が高く、シナジー効果の大きな企業のM&Aを実行していきたいと考えています。

### 一資本構成の変化について具体的にお聞かせください。

創業者山口聖二の相続人により物納された当社株式が国庫に収納されたことにより、平成19年2月に当社の筆頭株主が財務大臣になるという異例の事態が発生いたしました。この株式を買取るために谷間と山形の資産管理会社として設立した株式会社ヤタガラスホールディングスが銀行借入を行い、公開買付によって財務大臣保有の株式を買取り、その一部を資本業務提携を行ったサッポロビール株式会社に譲渡したという流れです。

結果として、現在の当社の株主構成は筆頭株主としてヤタガラスホールディングスが40.2%、財務大臣9.5%、サンミート9.2%、サッポロビール8.5%となり、創業者の山口

聖二が急逝してから約2年間掛かりましたが、株式市場に大きな混乱をもたらすことなく、安定した株主構成への移行を図ることができました。

### 一來期の見通しについて説明してください。

来期については、売上高11,500百万円（前期比26.7%増）、営業利益600百万円（前期比52.9%増）、経常利益550百万円（前期比72.7%増）、当期純利益275百万円（前期当期純損失65百万円）と大幅な増収、増益を見込んでいます。増収の要因は、来期より「おかずのカネジ」が通年寄与することが最も大きな要因です。また、利益については、今期出店店舗の通期貢献に加え、「おかずのカネジ」の利益貢献、新規開発業態への投資縮小などによるものです。

### 一カネジのM&Aやサッポロビールとの資本業務提携により成長戦略はどうなるのでしょうか？

基本的に食材の競争力を活かした「食」に関連する事業を展開することに全く変化はありません。関門海は、平成11年より食材に関する技術開発投資を積極的に行い、とらぶぐ料理専門店「玄品ぶぐ」という収益性

## 関門海グループの歴史

### 昭和 55 年

大阪府藤井寺市において、創業者山口聖二が当時では考えられない「てっちり 1,980 円」をキャッチフレーズとしたとらふぐ料理専門店「ふぐ半」（現「玄品ふぐ藤井寺の関」）を開店

### 平成元年

株式会社さかな亭（現 株式会社関門海を設立）し、個人店 2 店舗の営業を譲受

### 平成 11 年

関東地区 1 号店「下関ふぐ新橋店（現「玄品ふぐ新橋の関」）を開店  
食材に関連する技術開発を目的とした研究開発活動を開始

### 平成 13 年

株式会社関門海に商号を変更  
大阪府松原市に研究開発室、セントラルキッチン、物流センターを兼ねた本部事務所を開設

### 平成 14 年

とらふぐ料理専門店の屋号を「玄品ふぐ」に統一  
三重県度会郡南島町に関門海三重陸上養殖場を建設

### 平成 15 年

長期低温熟成技術が完成し、とらふぐの保存・輸送への導入開始

### 平成 16 年

東京都中央区に玄品ふぐフランチャイズ店舗 1 号店「玄品ふぐ銀座一丁目の関」を開店

### 平成 17 年

東京証券取引所マザーズ市場に株式上場  
創業者山口聖二が交通事故により急逝

### 平成 18 年

東京都武蔵野市に料理専門店 1 号店「玄品以蟹茂吉祥寺店」を開店  
店舗数 100 店舗を達成  
株式会社バルニバービと新規業態開発について業務提携  
福岡市博多区に九州地区 1 号店「玄品ふぐ中洲の関」を開店

### 平成 19 年

財務大臣が筆頭株主となる  
100%子会社 株式会社カネジを設立  
株式会社カネジが総菜宅配事業「おかずのカネジ」を譲受け  
大阪市西区北堀江にグループ本部事務所開設  
サッポロビール株式会社と資本業務提携契約締結  
現経営者の資産管理会社である株式会社ヤタガラスホールディングスが株式公開買付を実施

の高いビジネスを確立しました。今後は、玄品ふぐを成長させることはもちろん、さらなる技術開発と食材調達力を組み合わせ、さらに食材の加工・物流・保存機能も強化して基礎となる競争力として確立し、玄品ふぐ、新規開発業態の研究開発型外食事業、カネジの総菜宅配事業、サッポロビールとの資本業務提携などによる情報源の中からの M & A を柱として事業展開を推進していく方針です。

昨今、食の安全の問題、食材価格の高騰の問題などが世間を騒がせている中、我々のこれまでの取組みは、その影響を最小限にするだけではなく、逆に相対的な競争力は飛

躍的に向上していくものと考えております。これまで外食企業が取り組むことのない技術開発に当社グループが投資してきた成果が実を結ぶ時期が近づいてきています。今後とも、ご支援の程よろしく願いいたします。

株式会社関門海・カネジ

代表取締役会長 CEO 谷間 真

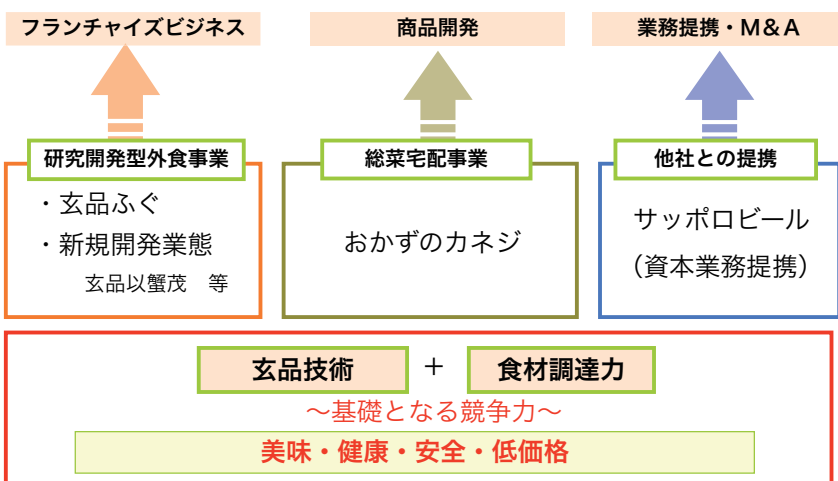
株式会社関門海

代表取締役社長 COO 山形 圭史

株式会社カネジ

代表取締役社長 COO 田中 正

## ビジネスモデル



## ■総菜宅配事業「おかずのカネジ」の概要を教えてください。

「おかずのカネジ」は昭和56年から25年以上に渡り、京阪神地区において総菜宅配事業を展開してきた歴史ある企業で、テレビCM、折込チラシや京阪神を走り回るカネジのトラック（通称カネトラ）などにより、一定の知名度を獲得しています。現在は10営業所を配置し、約18,000世帯に総菜の宅配を行っています。

## ■株式会社かね治が民事再生に至った要因は何だったのでしょうか？

株式会社かね治は、顧客との信頼関係、物流システム、メニュー開発など非常に優れた経営資源を持っていましたが、八尾商品センターへの過剰投資などによる財務収支の悪化により赤字化したと同時に民事再生に至ってしまいました。関門海としては、民事再生手続による財務収支の改善とコストダウンにより黒字化を図ることができると判断し、「おかずのカネジ」のM&Aを決断しました。

## ■「おかずのカネジ」のM&Aに要した投資額はどのくらいだったのでしょうか？

営業譲渡代金220百万円と有形固定資産として、八尾商品センターの土地建物、リース資産などの買取に544百万円を要し、計764百万円の投資を行いました。しかしながら、営業譲渡代金には、現金預金や売掛

金等の資産も含まれており、結果として営業権は低額で取得できたため、実質的には時価のある固定資産の買取のみでM&Aは完了しています。結果、優良な顧客と食品加工・物流インフラが取得できたこととなり、当社グループの経営資源は大幅に強化されました。

## ■カネジの事業再生の状況を教えてください。

株式会社かね治が平成19年2月に民事再生手続申立を行う直前の平成18年12月期における損益状況は、売上高4,343百万円、営業損失109百万円、経常損失144百万円という状況でした。事業譲受後、事業再生に必要な様々な投資コストを吸収しながらも、平成19年5月15日から平成19年11月30日での6ヶ月半の実績として、売上高1,968百万円、営業利益61百万円、経常利益62百万円と黒字化を達成しております。



# 財務ハイライト

## FINANCIAL HIGHLIGHT

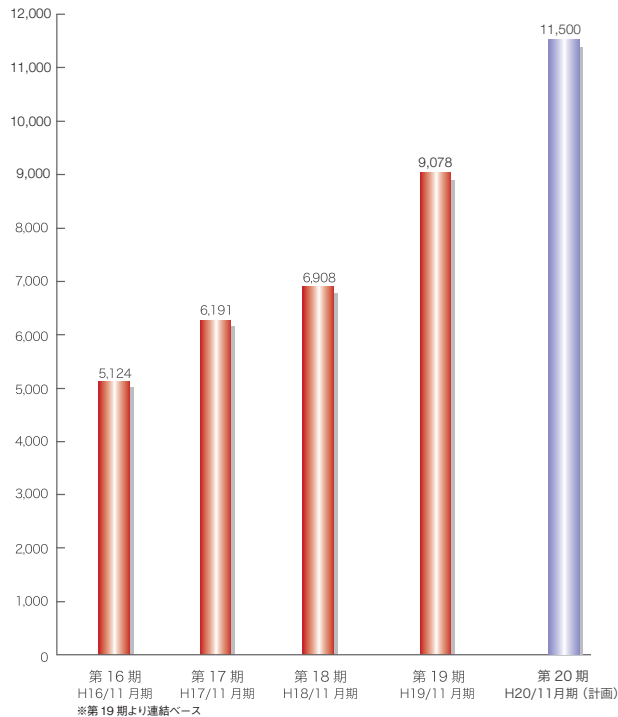
当社グループの当連結会計年度における売上高は、総菜宅配事業「おかずのカネジ」の譲受けにより 9,078 百万円（前年単体 6,908 百万円）と大幅に増加しましたが、営業利益につきましては、392 百万円（前年単体 403 百万円）に留まり、経常利益は 318 百万円（前年単体 371 百万円）、当期純損失は 65 百万円（前年単体は純利益 190 百万円）という結果となりました。

セグメント別では、「研究開発型外食事業」では、「玄品ふぐ」は、期末日現在、直営店舗 78 店舗、フランチャイズ店舗 33 店舗、計 111 店舗と前期末から 11 店舗増加し、新規開発業態の 10 店舗を合わせて、121 店舗を展開しており、その結果、売上高は 6,733 百万円、営業利益は 604 百万円となりました。「総菜宅配事業」は、売上高 1,965 百万円、営業利益 61 百万円と再生による黒字化を達成し、「その他の事業」は、売上高 379 百万円、営業利益 83 百万円となっております。

平成 20 年 11 月期は、総菜宅配事業の通年寄与等により、売上高 11,500 百万円（前期比 26.7%増）、営業利益 600 百万円（前期比 52.9%増）、経常利益 550 百万円（前期比 72.7%増）、当期純利益 275 百万円（前期は当期純損失 65 百万円）を見込んでおります。

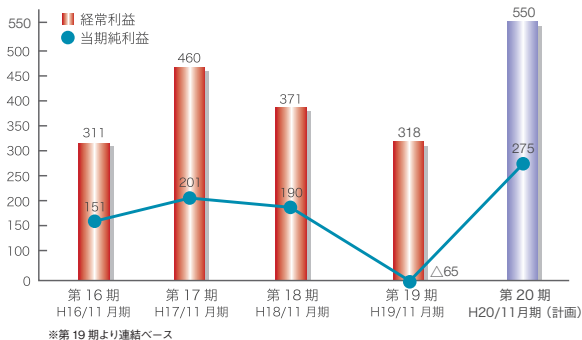
### ■ 売上高

（単位：百万円）



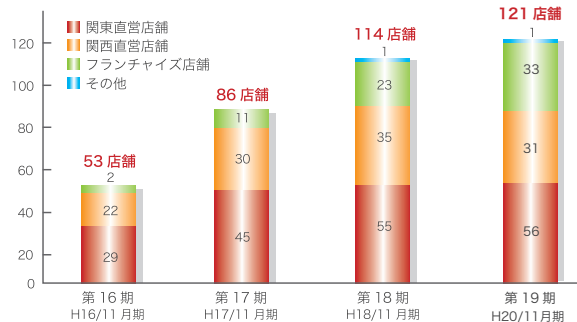
### ■ 経常利益・当期純利益

（単位：百万円）



### ■ 店舗数推移

（単位：店舗）



財務諸表

FINANCIAL STATEMENTS

■連結貸借対照表（要約）

（単位：千円）

|           | 当期<br>H19.11.30現在 |               | 当期<br>H19.11.30現在 |
|-----------|-------------------|---------------|-------------------|
| 資産の部      |                   | 負債の部          |                   |
| 流動資産      | 3,818,222         | 流動負債          | 3,721,916         |
| 現金及び預金    | 947,044           | 買掛金           | 499,989           |
| 売掛金       | 484,510           | 短期借入金         | 1,100,000         |
| たな卸資産     | 2,089,183         | 1年以内返済予定長期借入金 | 1,218,129         |
| 繰延税金資産    | 61,310            | 1年以内償還予定社債    | 32,000            |
| その他       | 238,082           | 未払金           | 709,058           |
| 貸倒引当金     | △1,908            | その他           | 162,739           |
| 固定資産      | 3,845,478         | 固定負債          | 2,486,255         |
| 有形固定資産    | 2,713,905         | 社債            | 40,000            |
| 建物及び構築物   | 1,856,755         | 長期借入金         | 2,382,726         |
| 機械装置及び運搬具 | 124,703           | その他           | 63,529            |
| 土地        | 349,032           | 負債合計          | 6,208,172         |
| 建設仮勘定     | 18,580            | 純資産の部         |                   |
| その他       | 364,833           | 株主資本          | 1,455,529         |
| 無形固定資産    | 101,280           | 資本金           | 306,040           |
| 投資その他の資産  | 1,030,293         | 資本剰余金         | 415,036           |
| 差入保証金     | 827,005           | 利益剰余金         | 734,453           |
| その他       | 203,288           | 純資産合計         | 1,455,529         |
| 資産合計      | 7,663,701         | 負債・純資産合計      | 7,663,701         |

■連結損益計算書（要約）

（単位：千円）

|              | 当期<br>H18.12.1～H19.11.30 |
|--------------|--------------------------|
| 売上高          | 9,078,665                |
| 売上原価         | 3,147,124                |
| 売上総利益        | 5,931,540                |
| 販売費及び一般管理費   | 5,539,182                |
| 営業利益         | 392,358                  |
| 営業外収益        | 16,327                   |
| 営業外費用        | 90,256                   |
| 経常利益         | 318,429                  |
| 特別利益         | 156                      |
| 特別損失         | 384,730                  |
| 税金等調整前当期純損失  | 66,144                   |
| 法人税・住民税及び事業税 | △709                     |
| 当期純損失        | 65,435                   |

■キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：千円）

|                  | 当期<br>H18.12.1～H19.11.30 |
|------------------|--------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 353,186                  |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,352,302               |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,358,017                |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 21                       |
| 現金及び現金同等物の増減額    | 358,923                  |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 535,120                  |
| 現金及び現金同等物の期末残高   | 894,044                  |

■株主資本等変動計算書（H18.12.1～H19.11.30）

（単位：千円）

|                         | 株主資本    |         |         |           | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計     |
|-------------------------|---------|---------|---------|-----------|--------------|------------|-----------|
|                         | 資本金     | 資本剰余金   | 利益剰余金   | 株主資本合計    | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |           |
| 前期末残高                   | 301,115 | 410,111 | 799,888 | 1,511,115 | △809         | △809       | 1,510,306 |
| 連結会計年度中の変動額             |         |         |         |           |              |            |           |
| 新株の発行                   | 4,925   | 4,925   |         | 9,850     |              |            | 9,850     |
| 当期純損失                   |         |         | △65,435 | △65,435   |              |            | △65,435   |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額） |         |         |         |           | 809          | 809        | 809       |
| 連結会計年度中の変動額合計           | 4,925   | 4,925   | △65,435 | △55,585   | 809          | 809        | △54,776   |
| 当期末残高                   | 306,040 | 415,036 | 734,453 | 1,455,529 | －            | －          | 1,455,529 |



財務諸表

FINANCIAL STATEMENTS

貸借対照表（要約）

（単位：千円）

|          | 当期<br>H19.11.30現在 | 前期<br>H18.11.30現在 |                | 当期<br>H19.11.30現在 | 前期<br>H18.11.30現在 |
|----------|-------------------|-------------------|----------------|-------------------|-------------------|
| 資産の部     |                   |                   | 負債の部           |                   |                   |
| 流動資産     | 3,567,382         | 2,702,042         | 流動負債           | 3,340,512         | 2,113,102         |
| 現金及び預金   | 622,086           | 535,120           | 買掛金            | 327,653           | 253,719           |
| 売掛金      | 307,377           | 255,930           | 短期借入金          | 1,100,000         | 600,000 ④         |
| たな卸資産    | 2,050,257         | 1,748,033 ①       | 1年以内返済予定の長期借入金 | 1,218,129         | 641,692           |
| 関係会社貸付金  | 300,000           | － ②               | 1年以内償還予定の社債    | 32,000            | 32,000            |
| その他      | 287,661           | 162,958           | 未払金            | 551,865           | 411,971           |
| 固定資産     | 3,677,813         | 3,076,520         | その他            | 110,864           | 173,719           |
| 有形固定資産   | 2,563,799         | 2,085,927 ③       | 固定負債           | 2,476,976         | 2,155,154         |
| 建物       | 1,766,246         | 1,461,178         | 社債             | 40,000            | 72,000            |
| 器具備品     | 339,042           | 326,521           | 長期借入金          | 2,382,726         | 2,025,854 ④       |
| 土地       | 349,032           | 142,321           | その他            | 54,250            | 57,300            |
| その他      | 109,477           | 155,905           | 負債合計           | 5,817,488         | 4,268,256         |
| 無形固定資産   | 75,784            | 93,908            | 純資産の部          |                   |                   |
| 投資その他の資産 | 1,038,229         | 896,684           | 株主資本           | 1,427,708         | 1,511,115         |
| 差入保証金    | 788,620           | 676,763           | 資本金            | 306,040           | 301,115           |
| その他      | 249,609           | 219,921 ②         | 資本剰余金          | 415,036           | 410,111           |
| 資産合計     | 7,245,196         | 5,778,562         | 利益剰余金          | 706,631           | 799,888           |
|          |                   |                   | 評価・換算差額等       | －                 | △ 809             |
|          |                   |                   | 純資産合計          | 1,427,708         | 1,510,306         |
|          |                   |                   | 負債・純資産合計       | 7,245,196         | 5,778,562         |

Point ①

たな卸資産

「玄品技術」により長期保存されたとらふくなどの食材を計上しています。当期は、今後の玄品ふくの事業拡大に備えて在庫投資を行った結果、前期より 302 百万円増加しています。

Point ②

短期貸付金・関係会社株式

カネジの運転資金として 50 百万円の出資と 300 百万円の貸付を行いました。

Point ③

有形固定資産

玄品ふく、新規開発業態の新規出店に加えて、カネジの有形固定資産を取得したこと等により、前期より 477 百万円増加しています。

Point ④

借入金

在庫投資、新規出店、カネジのM&Aなどにより借入金が前期よりも総額 1,433 百万円増加しています。



■ 損益計算書（要約）(単位：千円)

|                            | 当期<br>H18.12.1～H19.11.30 | 前期<br>H17.12.1～H18.11.30 |
|----------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 売上高                        | 7,250,199                | 6,908,017 ①              |
| 売上原価                       | 2,183,640                | 1,847,338                |
| 売上総利益                      | 5,066,558                | 5,060,678                |
| 販売費及び一般管理費                 | 4,759,760                | 4,657,372                |
| 営業利益                       | 306,798                  | 403,306 ②                |
| 営業外収益                      | 45,635                   | 9,490                    |
| 営業外費用                      | 95,781                   | 41,088                   |
| 経常利益                       | 256,652                  | 371,708 ②                |
| 特別利益                       | -                        | -                        |
| 特別損失                       | 370,932                  | 18,292                   |
| 税引前当期純利益または<br>税引前当期純損失（△） | △ 114,280                | 353,416 ③                |
| 法人税・住民税及び事業税               | △ 21,023                 | 162,474                  |
| 当期純利益                      | △ 93,257                 | 190,942                  |

Point ①

売上高

店舗売上高は、直営店舗をフランチャイズ化したことにより減少しておりますが、フランチャイズ売上高の増加、カネジへの食材等の売上などにより、5.0%増収となりました。

Point ②

営業利益・経常利益

新規開発業態への積極的な投資とグループ本部の強化により、販売費及び一般管理費が増加したことで営業利益は96百万円の減益、さらに経常利益は支払利息の増加とM&A関連費用の発生により115百万円の減益となりました。

Point ③

特別損失・当期純損失

関門海三重陸上養殖場の閉鎖、店舗の閉鎖損失等に加え、主売契約を締結していたアサヒビール株式会社への解約違約金等140百万円を特別損失に計上したことで当期純損失93百万円を計上することとなりました。

■ 株主資本等変動計算書（H18.12.1～H19.11.30）（要約）(単位：千円)

|                         | 株主資本    |         |          |           | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計     |
|-------------------------|---------|---------|----------|-----------|--------------|------------|-----------|
|                         | 資本金     | 資本剰余金   | 利益剰余金    | 株主資本合計    | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |           |
| 前期末残高                   | 301,115 | 410,111 | 799,888  | 1,511,115 | △ 809        | △ 809      | 1,510,306 |
| 事業年度中の変動額               |         |         |          |           |              |            |           |
| 新株の発行                   | 4,925   | 4,925   |          | 9,850     |              |            | 9,850     |
| 資本準備金からその他資本剰余金への振替     |         | -       |          | -         |              |            | -         |
| 特別償却準備金の取崩し             |         |         | -        | -         |              |            | -         |
| 当期純損失                   |         |         | △ 93,257 | △ 93,257  |              |            | △ 93,257  |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額） |         |         |          |           | 809          | 809        | 809       |
| 事業年度中の変動額合計             | 4,925   | 4,925   | △ 93,257 | △ 83,407  | 809          | 809        | △ 82,598  |
| 当期末残高                   | 306,040 | 415,036 | 706,631  | 1,427,708 | -            | -          | 1,427,708 |

# トピックス

## TOPICS

平成 18 年 12 月

- 玄品ふぐ東西大型旗艦店として、「六本木の関」「梅田東通の関」同時オープン

平成 19 年 2 月

- 財務大臣が筆頭株主となる
- 民事再生手続申立を行った株式会社かね治のスポンサーとして再生支援に着手

平成 19 年 3 月

- 100%子会社 株式会社カネジを設立

平成 19 年 5 月

- 株式会社カネジが総菜宅配事業「おかずのカネジ」を譲受け

平成 19 年 8 月

- 川崎の商業施設「LA CITTA DELLA」にて、レストラン「ARIA-C」をオープン
- 大阪市西区北堀江に、グループ本部事務所を開設

平成 19 年 9 月

- 東京の自由が丘で、中華料理「爆香房」をオープン
- 銀座八丁目の都心型商業施設ニッタビルにて、高級ふぐ料理「ふぐ玄銀」をオープン
- カネジ八尾商品センターを取得

平成 19 年 10 月

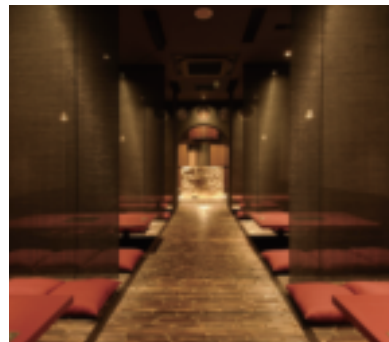
- サッポロビール株式会社と資本業務提携に関する基本合意書を締結

平成 19 年 11 月

- ららガーデン春日部にて、すし料理「鮭也玄」をオープン

平成 19 年 12 月

- 株式会社ヤタガラスホールディングスが株式公開買付を実施
- 玄品ふぐの TV コマーシャル開始



# 「玄品ふぐ」店舗展開状況

STORE EXPANSION SITUATION

平成20年1月末日現在

## 「以蟹茂」

大阪府（大阪市内） 東心斎橋店  
 東京都（23区内） 新宿南店  
 東京都（23区内） 浜松町店  
 東京都下 吉祥寺店  
 埼玉県 南越谷店



梅田東通の関



六本木の関

## 大阪府（大阪市内）

|        |       |         |
|--------|-------|---------|
| 桃谷の関   | 新大阪の関 | 法善寺の関   |
| 花園の関   | 福島関   | 宗右衛門町の関 |
| 千鳥橋の関  | 西中島の関 | 梅田東通の関  |
| 千林大宮の関 | 九条の関  | 曽根崎の関   |
| 我孫子の関  | 大田町の関 | 北梅田の関   |
| 加賀屋の関  | 鶴橋の関  | 天満の関    |
|        |       | 船場の関    |

## 大阪府（大阪府下）

|        |       |      |
|--------|-------|------|
| 長田の関   | 高槻の関  | 江坂の関 |
| 瓢箪山の関  | 寝屋川の関 | 吹田の関 |
| 八尾の関   | 香里園の関 | 庄内関  |
| 藤井寺の関  | 大和田の関 | 池田の関 |
| 堺天神の関  | 守口の関  | 楠葉の関 |
| 鳳の関    | 布施の関  | 茨木の関 |
| 和泉大宮の関 |       |      |



横浜の関

## 埼玉県

川口の関  
 越谷の関  
 浦和の関  
 草加の関  
 大宮の関  
 上福岡の関

## 東京都（23区内）

|          |        |        |
|----------|--------|--------|
| 神田の関     | 池袋の関   | 板橋の関   |
| 御茶ノ水の関   | 中野の関   | 志村坂上の関 |
| 水道橋の関    | 上野の関   | 練馬の関   |
| 銀座一丁目の関  | 浅草の関   | 自由が丘の関 |
| 六本木の関    | 浅草橋の関  | 蒲田の関   |
| 新橋の関     | 両国の関   | 大森の関   |
| 田町の関     | 亀有の関   | 千歳烏山の関 |
| 五反田の関    | 門前仲町の関 | 桜上水の関  |
| 大井町の関    | 亀戸の関   | 三軒茶屋の関 |
| 武蔵小山の関   | 西葛西の関  | 高円寺の関  |
| 新宿三丁目の関  | 小岩の関   | 赤羽の関   |
| 新宿歌舞伎町の関 | 中板橋の関  | 竹ノ塚の関  |
| 神楽坂の関    | 東高円寺の関 | 平井の関   |
|          |        | 仲宿の関   |

## 東京都下

吉祥寺の関  
 武蔵境の関  
 つつじヶ丘の関  
 国分寺の関

## 千葉県

浦安の関  
 本八幡の関  
 柏の関  
 千葉中央の関

## 「新規業態」

|          |           |
|----------|-----------|
| 脳天直撃酒場   | 大阪府（大阪府下） |
| バルデゲー    | 東京都（23区内） |
| 爆番房      | 東京都（23区内） |
| 玄銀（くろかね） | 東京都（23区内） |
| アリアッチ    | 神奈川県      |
| 鮎也玄      | 埼玉県       |



池袋の関

## 福岡県

中洲の関

## 九州

## 関西

## 京都府

祇園の関

## 兵庫県

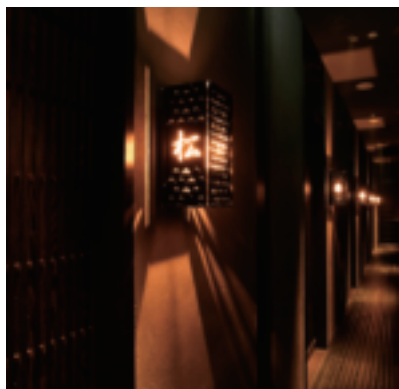
北野坂の関  
 伊丹の関  
 尼崎の関  
 六甲道の関  
 塚口の関  
 姫路の関

## 関東

## 神奈川県

川崎の関  
 元住吉の関  
 桜木町の関  
 石川町の関  
 本厚木の関  
 平塚の関  
 南林間の関  
 綱島の関  
 大船の関  
 あざみ野の関  
 横浜の関

### 「19 期は多様な新規業態の開発に取り組みました。」



くらがね  
ふぐ玄銀

**ふぐ玄銀 (くらがね)**  
平成 19 年 9 月オープン

銀座ニッパビルにおいて、とらふぐ料理店の高級業態をオープン。  
森井良之氏の手によりシャープで美しい和の空間を表現。

Chinese Restaurant  
**爆香房**  
BAC-KA BOU



**「爆香房 (ばっかぼう)」**  
平成 19 年 9 月オープン

数々のコンクールでグランプリを獲得した服部曉彦氏を料理長に迎え、  
その優れた技術と感性による独創的な料理を提供。



鮎也玄

**鮎也玄 (すしやげん)**  
平成 19 年 11 月オープン

『魚市場』を表現した『鮎屋』をららガーデン春日部にオープン。  
一貫一貫丁寧に握った市場直結の豊富で新鮮なネタは家族連れにも大人気。

**ARIA.C**



**「ARIA. C (アリアッチ)」**  
平成 19 年 8 月オープン

イタリアの街並みを表現したカジュアルフレンチレストランを  
川崎のラチッタデッラにオープン。デートや記念日に利用できる  
落ち着いた雰囲気のカップルに人気。

まず、玄品ふぐについては、今秋より出店を再加速したいと考えています。人材育成の状況、物件の店舗規模により変更をしますが、出店店舗数は5から10店舗を想定しています。また、フランチャイズ店舗については、店舗を譲渡した加盟店を中心とした出店意欲の高いFCオーナーに人材確保等の協力を行い出店を促進し、最低3店舗程度の新規出店を行う計画です。

また、新規開発業態については、新規出店を商業施設だけではなく、初期投資を抑えた居抜店舗等への出店を強化しつつ継続して推進していきます。また、大阪市西区北堀江のグループ本部事務所の1Fにおいて、業務提携先である株式会社バルニバービとの共同企画で、約100坪の飲食店モールを今春にオープンすべく準備を進めています。これは、当社が開発・投資した店舗をチャレンジしたい個人が経営するというものです。当社の収益は完全売上歩合の家賃収入が主となります。目的は、個性的な人材の確保と不動産価値の向上に関するテストです。

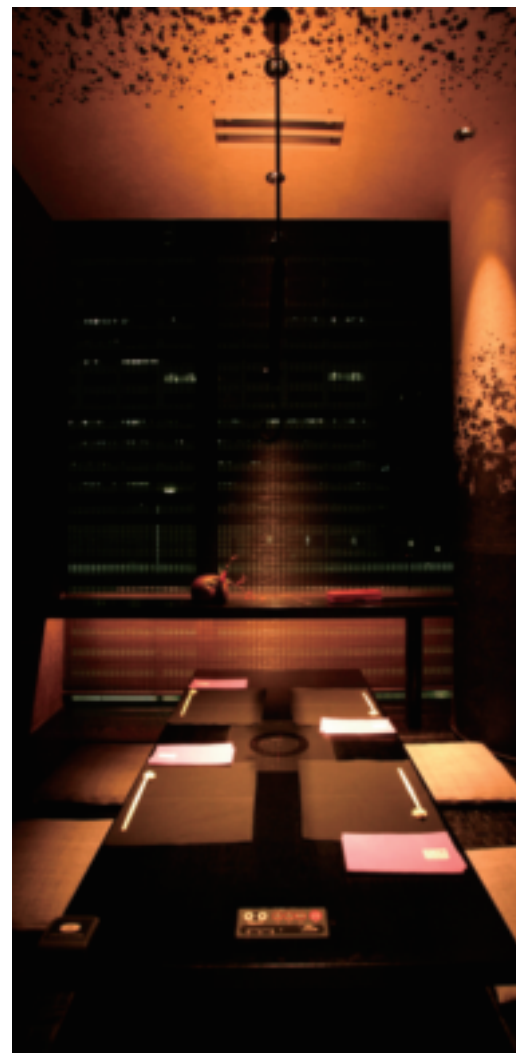


新たに来期以降に強化したテーマは、「食材調達力の強化」です。

これまで当社グループは、とらふぐの調達に関しては圧倒的な競争力がありますが、それ以外の食材については、技術開発は出来ても調達力の向上を図ることは極めて困難でした。実際に販売先がなかったため、調達活動を推進していくことができなかったからです。

今期、カネジをM&Aしたことで様々な食材に関して、実際に仕入を行いながら調査・商談を進めることが可能となり、食材調達力が向上しています。

現在は、各地の漁港や農家などの生産者からの直接調達やサッポロビールの協力による北海道での調達先の開拓など新たなルートの開拓を推進しています。現在の食材価格の高騰等も踏まえ、食材調達力と関門海が開発してきた食材に関する様々な技術とを組み合わせることで、差別化できる食材に関する競争力を開発していきたいと思えます。



# 株式の状況

## SITUATION OF THE STOCKS

平成19年11月30日現在

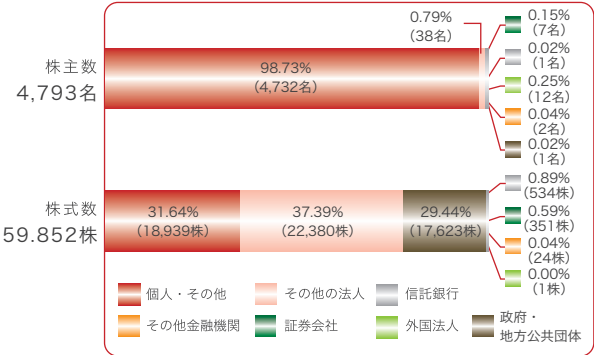
### 株式の状況

|          |          |
|----------|----------|
| 発行可能株式総数 | 200,000株 |
| 発行済株式の総数 | 59,852株  |
| 当期末株主数   | 4,793名   |

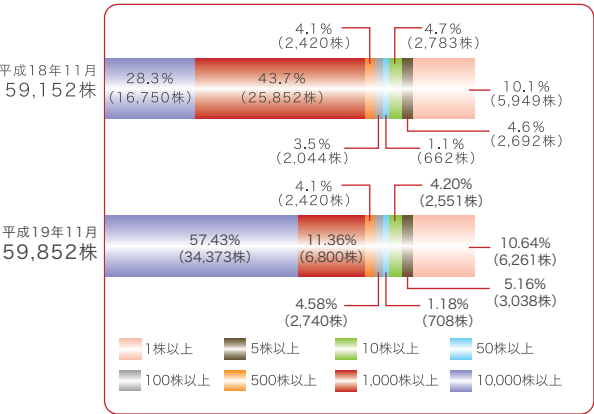
### 大株主

| 株主名               | 当社への出資状況 |        |
|-------------------|----------|--------|
|                   | 持株数      | 議決権比率  |
| 財 務 大 臣           | 17,623   | 29.44% |
| 株式会社ヤタガラスホールディングス | 16,750   | 27.98% |
| 有 限 会 社 サ ン ミ ー ト | 5,500    | 9.19%  |
| 山 形 圭 史           | 1,300    | 2.17%  |
| 岡 本 洋 一           | 960      | 1.60%  |
| 吉 崎 晃 敏           | 960      | 1.60%  |
| 福 株 会             | 952      | 1.59%  |
| 谷 間 真             | 904      | 1.51%  |
| 浅 野 省 三           | 400      | 0.67%  |
| 八 藤 眞             | 400      | 0.67%  |

### 所有者別株式分布状況



### 所有株式数別分布状況





## 株主優待制度

### ■株主優待制度概要

- ・ 1株以上3株未満 優待券×1枚 (3,900円相当)
- ・ 3株以上5株未満 優待券×2枚 (7,800円相当)
- ・ 5株以上 優待券×3枚 (11,700円相当)

### ■対象となる株主様

毎年5月31日、11月30日現在の  
株主名簿及び実質株主名簿に記載  
された株主様

### ■優待内容

※優待券1枚につき以下のいずれかをお選びいただけます。

- ・ とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」 ①匠味セット1人前ご優待
- ・ かに料理専門店「玄品以蟹茂」 ②スワイ蟹鍋と炭火烧2人前ご優待  
③ 3,900円相当の割引
- ・ スペインバル「バルデゲー」  
カジュアルフレンチレストラン「ARIA. C (アリアッチ)」  
すし料理「鮎也玄 (すしやげん)」  
中華料理「爆香房 (ばっかぼう)」  
④ 3,900円相当の割引
- ・ お取り寄せ玄品ふぐ ⑤ 3,900円相当の割引
- ・ ひれ酒セット ⑥ 関門海オリジナル  
ひれ酒セットと引き換え

### ■「株主優待券」のご送付時期

- ・ 5月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主様に対しては、8月下旬頃の発送となります。
- ・ 11月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主様に対しては、2月下旬頃の発送となります。

## 配当実施のお知らせ

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして認識しつつ、これまでは新規出店、技術開発、人材育成への投資及び内部留保の充実に努めてまいりました。今後も、引き続き新規出店、技術開発、M & A等に関わる投資により成長を継続させ、企業価値を高めてまいる所存ですが、同時に当社株式を長期保有していただいております株主の皆様への利益還元として、配当を実施させていただくことといたしました。

### ■平成20年11月期の1株当たり配当予想の内容

平成20年1月15日に発表させていただいた内容につきましては以下のとおりとなっております。

なお、配当金額につきましては、現段階での予想となっており、変更する可能性もございます。

|      | 中間配当金  | 期末配当予想 | 年間配当金  |
|------|--------|--------|--------|
| 発表予想 | 1,000円 | 1,000円 | 2,000円 |





# 会社概要

■株式会社 関門海 KANMONKAI Co., Ltd.

創業 昭和55年9月  
創業者山口聖二がとらふぐ料理専門店「ふぐ半」  
(現「玄品ふぐ藤井寺の関」)を開店  
設立 平成元年5月  
所在地 【グループ本部事務所】

〒550-0014  
大阪市西区北堀江二丁目3番3号  
TEL：06-6578-0029  
e-mail：ir@kanmonkai.co.jp  
URL：http://www.kanmonkai.co.jp

【本店】  
〒580-0041  
大阪府松原市三宅東一丁目8番7号  
【東京支社】  
〒108-0023  
東京都港区芝浦三丁目8番10号  
MA芝浦ビル2F

資本金 3億604万円 (平成19年11月30日現在)  
役員 代表取締役会長CEO 谷間 真  
代表取締役社長COO 山形 圭史  
専務取締役 山元 正  
取締役 岩本 昌志  
取締役 岡本 洋一  
取締役 本多 正嗣  
取締役 大村美智也  
取締役 原 真理  
取締役 田中 正  
社外取締役 川合アルム  
監査役 山口 静広  
社外監査役 浅野 省三  
社外監査役 玉置 和則  
(平成20年2月末日現在)

従業員数 217名 (平成19年11月30日現在)  
事業内容 ・「美味で健康的な本物のおいしさ」を追求する  
食材関連技術の開発  
・とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の直営及び  
フランチャイズによる店舗展開  
・食材関連技術を活用した新規開発業態による  
店舗展開

■株式会社 カネジ KANEJI Co., Ltd.

設立 平成19年3月  
所在地 【本社】  
〒550-0014  
大阪市西区北堀江二丁目3番3号  
TEL：06-6578-0220  
URL：http://www.kanej.co.jp/  
【商品センター】  
〒581-0851  
大阪府八尾市上尾町四丁目11番17号

資本金 5,000万円  
株主構成 株式会社関門海  
役員 代表取締役会長CEO 谷間 真 ※  
代表取締役社長COO 田中 正 ※  
常務取締役 中山 泰三  
取締役 稲葉 栄一  
取締役 山元 正 ※  
取締役 本多 正嗣 ※  
社外取締役 辻 有吾  
監査役 原 真理 ※  
(平成20年2月末日現在)

※印を付した者は、株式会社関門海の  
取締役と兼務しております。  
従業員数 176名 (平成19年11月30日現在)  
事業内容 関西地区にて約1万8千世帯のご家庭に、  
「おいさと安心」をテーマに  
豊かで健康的な食材を宅配する総菜宅配事業

## 株主メモ

決算期 毎年11月30日  
基準日 毎年11月30日  
中間配当基準日 毎年5月31日  
株式の売買単位 1株  
公告掲載方法 電子公告による。  
(http://www.kanmonkai.co.jp)  
但し、電子公告を行えない場合は、  
日本経済新聞に掲載する。  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行業  
TEL：0120-684-479  
同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店